

日大鶴ヶ丘高校進路通信
第8号 令和3年6月発行

進路指導部主任より



1年で唯一祭日がない6月も終わろうとしています。

さて、田んぼでは機械化される以前は6月の梅雨の雨を利用して田植えが行われました。大変な作業で、先生が子供の頃、田舎の学校では〈田植え休み〉なる休日も存在するほどでした。田植えの後農家の人たちは毎日毎日、雑草の除去に努めます。そのように万全の態勢で育てていても、台風等の暴風雨でせっかく育ってきた稲が台無しになることもあります。そういう見えない努力の結果、おいしいお米を私たちは口にすることができます。

第8号では各学年で今月行われた進路行事を特集しています。行事を「やらされている」から「(自分から進んで)やっている」へと、主体的に意識転換をできる人は時間を無駄にしない人。地道な努力の積み重ねができる人には必ず〈実りの秋〉がやってきます。期待しています。

〈1年生 6月23日(水)「適学・適職診断」〉

1年生は、「適学・適職診断」を受検しました。新聞やニュースなどでも取り上げられますが、ここ数年の日本では、安易な進路選択をしてしまった結果、大学での勉強や学生生活がうまくいかず、「もっとよく考えて調べておけば良かった・・・」と後悔している大学生が少なからずいるようです。その原因は、主に「情報不足」と「偏った理解」だと言われています。マイナビの適学・適職診断は、受検者の特徴を客観的に割り出すことを可能にした診断ツールと言われています。例えば、「英語」に興味・関心が出ていても、「通訳」と「翻訳」では適性が同一のものとは限りません。コミュニケーションが好きな人は「通訳」に、1人でこつこつ物事を進めるのが好きな人は「翻訳」に適性が表れます。今回の適性の診断結果の意味を知り、少しでも将来の目標になりうるものを見つけることができたのではないかと思います。

〈2年生普通コース 6月23日(水)「自己分析テスト(プレテスト)」〉

2年生普通コースは「自己分析テスト(プレテスト)」を実施しました。今年度から本校で新たに導入しましたが、どの生徒も真剣に取り組んでいました。このテストは推薦入試に必要な「志望理由書」を書くためのステップとして設けられています。進路がはっきりと定まっていない場合や、自分の強みがわからない場合には、志望理由書を書いても説得力に欠け、内容も薄くなってしまいがちです。まずは後日返却される結果個人票を通して、適性や長所といった客観的なデータを確認してほしいと思います。3学期には『志望理由書・自己PR文完成ノート』などの教材を使い、第一学習社の講師の方より文章の書き方を教えていただきます。生徒の皆さんは、学習と並行して主体的に進路選択を行い、読み手の心を掴む志望理由書を目指しましょう。

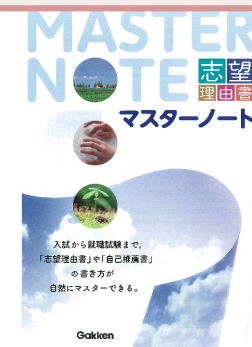


〈3年生普通コース 6月9日(水)「志望理由書 模試」〉

3年生普通コースは志望理由書の模試を受検しました。昨年度に添削してもらった志望理由書や、6月2日(水)に行った映像での書き方講座を活かして書いていたように感じます。志望理由書を書くことは入試の対策だけでなく「なぜその大学に行きたいのか」「なぜその学問を学びたいのか」ということを考える機会にもなります。自分が学びたいことや将来なりたい職業について、今の考えを文章化することで勉強への取り組みも気が引き締まることを祈っています。



次号予告



次号の鶴進では、「夏休みの過ごし方(オープンキャンパス参加など)」について取り上げます！